

上条 報告

第48号
平成25年5月

甲州市教育委員会
☎32-5097

神部神社の隨身門 保存修理事業が終了

上萩原に鎮座する神部神社は、貞観二年（八六〇）の草創と伝えられ、「延喜式神名帳」に記載される神社、いわゆる「延喜式内社」として、千年以上の歴史と由緒をもつ神社です。本殿と隨身門が県の文化財に指定されており、いずれも元龜二年（一五七一）ころの建立とされ、中世の貴重な遺構です。

このたび、四年の歳月をかけて行われた隨身門の保存修理が終了し、竣工式が開催されました。竣工式は春の例大祭の前日、三月二十九日に執り行われ、山梨県教育庁学術文化財課の代表、市長、教育長、地元の議員さん方が出席し、みんなで四年間の苦労と完成の喜びを分かち合いました。

ご承知のとおり、旧

村の名前でもある神金の地名の由来は、重川左岸に鎮座する神部神社と、右岸に鎮座する金井加里神社の一字ずつを取って村名としたものです。神金地区にはゆかりの深い神部神社の隨身門修理についてご紹介します。



神部神社について

神部神社は先に記したとおり延喜式内社とされ、古く由緒をもつ神社です。江戸時代末までは「岩間大明神」と称されており、これは社中から温泉が湧出しており、そのため「湯山大明神」と呼ばれていたものが転訛したものでいわれています。

天正十一年（一五八三）に徳川家康から神領が安堵され、慶長八年（一六〇三）には徳川氏四奉行より上萩原村の一石八斗が寄進されました。

その後正徳六年（一七一六）には正一位に任ぜられ、これを機にしたものと考えられる修理された痕跡が、隨身門などに見られます。

今なおこんこんと湧き出る温泉は、地元の方々の水源に利用されているほか、神金小学校のプールにも供給されています。また、この地には縄文時代の土器が散布しており、五千年以上前から温泉が使われていたのかも知れません。

神部神社隨身門

隨身門の創建については、棟札により元龜二年に再興されたことが判明しています。三間一戸八脚門という形式で、金井加里神社の隨身門と同じです。門の両側に隨身が安置されることから隨身門と呼ばれており、これが寺院だと仁王像が安置され、名称も仁王門となります。

たびたび修理が繰り返されてきましたが、近年では昭和四年（一九二九）に屋根を鉄板に葺き替えています。しかし全体の傷みは著しく、四方から丸太で支え

ている状況でした。

保存修理の概要

隨身門は、傷みが全体にわたって見られるため全解体とし、さらに隨身門が建っている基壇も固め直すこととしました。また、調査により建築当初は茅葺だったと思われるため、屋根は茅葺型銅板葺（旧高野家住宅主屋と同じ）としました。

修理期間は平成二十一年度から二十四年度までの四カ年継続で、解体後は更地の状態が長く続きました。解体された部材は石川工務所の作業場に保管され、そこで繕いなどを行いました。

傷みがひどかった土台まわりも新材に取り替えられ、しっかりとした姿になりました。修理前と大きく異なるのは屋根の形状くらいで、茅の厚みが表現されているため、どっしりとした感じがします。

神部神社では、これを機に境内の整備や神輿の修理にも着手し、神社の風景が一新されました。特に神輿の修理については、新聞などでも報道されています。



修理前(上)と修理後(下)の比較。



背面から



左妻側から



左前から

竣工式の挙行

三月二十九日、関係者、来賓、神金小学校の児童代表、神金保育園の園児、地元の方々ら一〇〇名ほどが集まり、竣工式が挙行されました。

まず、日原宮司夫婦による神事が執り行われ、神様に工事が無事に完了したことをお知らせしました。

その後の竣工式では、市長をはじめ来賓の方々がお祝いのことばを述べ、氏子総代会の労をねぎらっていました。

この日を記念して、竣工式終了後に神金・大藤の両小学校に通う氏子の児童と、神金保育所の園児によるアジサイの記念植樹も行われました。



市長の祝辞。



保育園児の記念植樹。

【宮城県気仙沼市・尾形家住宅】

再生プロジェクト 開催予定

尾形家住宅は気仙沼湾の東岸の岬に位置し、二百年以上の歴史を有する旧網元の民家です。地震により全壊し、津波で押し流されましたが、約一〇〇m移動した位置で茅葺き屋根が発見されました。

建築や民俗の専門家、多くのボランティアによって修復保存に向けて茅葺き屋根と小屋組の解体、瓦礫の中からの部材や民具の救出などが実施されました。再建築と、地域に根差した文化財としての活用を目指すため結成された保存会とともに、事業を推進しています。

救出された部材は現在、甲州市内にある石川工務所の資材置き場に保管されています。これらの部材を修理する様子の見学会と、震災による文化財被害を防ぐためのシンポジウムを、七月十四日（日）に旧高野家住宅主屋で開催します。

詳細は未定ですが、決まり次第ご報告します。



震災前の尾形家住宅(上)と、津波で被害を受けた様子。屋根より下の柱はほぼ全て折れるなどしています。